市民による芸術文化の共同事業体情報誌「ぬーべるふぉんてーぬ」
70
Nouvelle Fontaine
発行日 2021年4月25日
発　行 岸和田文化事業協会
〒596-0073　岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://jisen.jp/

継続する力～自泉会館から発信する文化

岸和田文化事業協会会長
齊藤 憲子

初めて『コロナウイルス』という言葉を耳にしてから1年以上経ちました。長く暗いトンネルの中を歩く様な日々。出口の光が見えるのを願って、誰もがお過ごしのことでしょう。

さて、昨年は岸和田文化事業協会にとって特別の年でありました。コロナ禍は元より、自泉会館指定管理者としての資質を問われる時となったためです。

国指定の有形文化財である自泉会館は、岸和田市が指定管理者制度を用いて管理運営を行っています。岸和田文化事業協会は平成18年より3期、指定管理者を務めてきました。令和２年度は今期の集大成を示し、次の指定管理者として指名を頂くための年だったのです。

私たちは『市民の共有財産である岸和田の文化を市民自身の手で守り、育て、創り出す』という理念の体現を一番大切にしています。これまで様々な事業を展開する中で少しずつ自主事業数を増やしながら、自泉会館、そして自らの存在をアピールしてきました。嬉しいことに、音楽ホールとして近年高い評価をいただけるようになってきました。また自泉会館が歴史的建築物だということを市民と共に学び、前にも増して知識と愛着を深めることもできました。

こうした活動を評価していただき、来る５年間も引き続き自泉会館の指定管理者に決定されました。管理者としてどのように管理運営していくのか。市に提出した骨子に、血を通わせ肉を付けていく作業が始まります。これには岸和田文化事業協会会員はもちろん、市民や訪れて下さる皆様のお力が必要です。多くの方の協力無しに事業を継続し発展させていくことはできません。用意している企画はいずれも、参加して下さる方がいてこそ生きてくるものだからです。

そのことを胸に刻み、昨年度より続けている自泉アーティストバンクの登録者には、さらに活躍する場を用意して研鑽を積んでいただきます。また各企画の実施の折に、事業をお手伝い下さる方をサポーターと称して募集することも考えています。岸和田の文化を愛し、自泉会館が大好きな方々に、是非ともご参加いただけるよう願っております。

この他にも、多くの方が楽しんで集えるような企画を計画しています。ご期待下さい。

令和４年には岸和田市市政施行100年を迎えます。奇しくも岸和田文化事業協会が20周年、自泉会館が建設されて90年という年でもあります。

永々と培われてきた文化を未来の岸和田へ手渡せるように歴史をつないでいく架け橋となるべく、皆様と一緒に指定管理者の責務を果たしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

お はなし 聞かせて 13

各分野で活躍し岸和田にかかわりのある方々に、お話をお聞きします。

岸和田産のおいしい食材を全国に

フードスタイリスト
フォトスタイリスト　川崎　利栄

岸和田に嫁ぎ、人生の半分を岸和田で過ごしています。

子育て中、社会から取り残されたような気持ちになり「何かしないと！」と思うようになりました。

子どもを見ながら家でできる事をと考え、毎日作る家庭のごはんのレシピを発信するようになりました。今では写真がおしゃれできれいというのは当たり前になっていますが、私がカメラとスタイリングを学び始めた当時はちょっときれいに撮る事ができると、メディアから声がかかるという感じでした。ご縁をいただき、料理本を２冊出版することもできました。

人生折り返しの年齢になり、地元に根付いた活動がしたいと強く思うようになりました。岸和田は山があり海があり、豊かな自然がすぐ側にある恵まれた土地で、大阪の台所の何割かは岸和田の農家さん、漁師さんが支えていると言っても過言ではありません。

じわじわと広がりをみせるきしわだ発のにんじん「彩誉（あやほまれ）」は、ブランド化の第一歩のブランド委員会に専門家として参加させていただき、見守ってきました。若手の農家さんがとにかく勉強熱心で、研究に研究を重ね彩誉の生産をされ、今ではテレビにも取り上げられるほどになっています。彩誉だけではなく、岸和田の土地で育てられたものに価値があり、魅力あるものとしてもっともっと発信される事を願っています。

好きな仕事の１つに地元テレビ局の料理コーナーがあります。農家さんに取材をしてこだわりや工夫していることなどを教えていただき、その食材を使って料理をします。生産者の顔が見える食材を使えることほど贅沢なことはありません。

個人的には現在、泉州地域（特に岸和田）の食材を積極的に使いSNSで発信をしています。

「岸和田＝自然豊かな町、岸和田＝おいしい食材がある町」というふうに、だんじり以外の岸和田の魅力を全国に伝えしていくことをこれからの目標としています。

めざせ！岸和田マイスター

【岸和田藩岡部家編】

監修：江間 一夫

岸和田市の持つ魅力をお伝えする岸和田マイスター。これまでに岸和田城、城下町、JR阪和線界隈、岸和田藩と岡部氏、市内の神社を問題形式でお届けしてきました。
このあたりで、もう一つ扉を開けましょう。
さらに奥深い岸和田を知ってみませんか。
今回も前号に続き、岸和田藩岡部家の歴代藩主について詳しくご紹介いたします。

【9】岡部長慎（ながちか）

官職：従五位下・美濃守
生没：天明7年2月29日
　　～安政5年12月25日
　　1787～1858
　　（岸和田生・72歳没）
在職：享和3年11月20日
　　～天保4年11月24日
　　1803～1833（17～47歳）
財政：倹約励行・知行半減・給銀減額・献金強制
文教：天保4年『重訂本草綱目啓蒙』刊行
趣味：馬好み→「岡部の伯労」の異名

【10】岡部長和（ながより）

官職：従五位下・内膳正
生没：文化4年7月3日
　　～嘉永3年9月24日
　　1807～1850
　　（岸和田生・44歳没）
在職：天保4年11月24日
　　～嘉永3年9月24日
　　1833～1850（27～44歳）
業績：天保5年・日光代参（徳川家斉名代）
　　天保8年・大塩平八郎の乱鎮圧に出兵
　　→岸和田藩兵が到着時には鎮圧済

【11】岡部長発（ながゆき）

官職：従五位下・美濃守
生没：天保5年9月21日
　　～安政2年2月14日
　　1834～1855
　　（江戸生・22歳没）
在職：嘉永3年11月24日
　　～安政2年2月14日
　　1850～1855（17～22歳）
藩校：講習館創設（初代館長＝相馬九方）
軍事：安政元年（1854）・ロシア軍艦　→【参考11】
　　岸和田沖に停泊　→　沿岸防備

【参考11】岸和田藩の対策

（1）対外情勢
1791：ロシア艦が紀州海岸に漂着
　　沿岸警備命令・岸和田藩動員
　　物頭2騎・目付1騎・筆談役1・徒歩目付1
　　足軽小頭4・足軽40・懸役1・検使1・大筒1挺
1851：外国船漂流・監視
1853：ペリー・浦賀に来航上陸
1854：ロシア・フリゲート艦・ディアナ号
　　使節プチャーチン乗船
　　岸和田沖通過→天保山沖に投錨
　　（姫路藩領～和歌山藩領に警備網）→下田に回航
1864：外国船10隻余・高石沖に停泊→翌日出航
（2）岸和田藩防備体制（海岸周辺）
野村下浜（岡部領分）＝役人5・足軽150・
　　大筒2挺（1貫目玉）・鉄砲10挺
紙屋町浜（岡部城下）＝役人5・足軽150・
　　大筒1挺（3貫目玉）・鉄砲10挺
大工町浜（岡部城下）＝役人5・足軽150・
　　大筒1挺（3貫目玉）・鉄砲15挺
大北町浜（岡部城下）＝役人5・足軽180・
　　大筒2挺（1貫目玉）・鉄砲15挺
岸和田浜字天保山ト唱＝役人10・足軽150・
　　大筒1挺（6貫目玉）・鉄砲15挺
　　合計＝役人30・足軽780・大筒7挺・鉄砲65挺
（3）外国船見物禁止令（1854）
①適塾塾生・二宮逸二の書簡→「夷人ノヲチツキニハ感心仕候、総テ珍ソウニキヨロキヨロモセズ、平気ナ物ニ御座候、誠ニ感心感心」
②大坂→ロシア艦見物→小舟の漕出禁止→ロシア艦（バッテイラ）→大坂湾南下→岸和田浦北方海岸沖（御茶屋浜沖）停泊→「見物之小舟夥敷其廻リニコレ有リ」→大目付「異国船当浦へまかり越し候共、見物のためまかり越し候義、一切無用に致さるべく候」
③相馬九方（講習館館長）・吉岡準之助（砲術師範）
→小舟で天保山沖偵察（藩命）

Cultural Hot Spot In Kishiwada
岸和田の文化ホット情報

『キシワダワニ』からわかるエトセトラ
きしわだ自然資料館には面白いがいっぱい！

「キシワダワニ知ってる？」知人数人に聞いてみたら「何それ？」「新種？知らんわ」「初めて聞いた」こんな答えが返ってきました。自分も耳にしたことがあるだけで詳しくは知りません。そこできしわだ自然資料館を訪ね、専門員の渡辺克典先生に教えていただきました。

今からおよそ60万年前に生息していたキシワダワニは、1994年岸和田市流木町の公共水道工事中に偶然発見されました。頭の部分がかなり残っていたので種類を絞り込む手がかりも多く残されています。日本で見つかったワニ化石としては五指に入る素晴らしい発見です。

キシワダワニ 頭骨(レプリカ)

キシワダワニは口が細長く、水中ですばやく魚を捕るのに適応していることがわかります。細長い歯で串刺しにした魚を食べて暮らしていました。魚だけでなく色々な動物を補食するワニの歯であればドングリのように太いので、このように推察できるのです。

1964年に豊中市待兼町でほぼ完全な形で発掘されたマチカネワニ（40～50万年前、学名トヨタマヒメイア・マチカネンシス）とは生息時期が違うものの、この間の変化がほとんど見出せないため、この2体は同じ種類で、岸和田で発見されたものもマチカネワニに分類されています。というわけで、キシワダワニは愛称なのです。正式には『マチカネワニ岸和田標本』と呼ばれ、唯一の存在として学名や和名に『キシワダ』の文字がないのは残念ですが、２体目のマチカネワニの発見でワニ類が日本に定着していたことがわかる大変重要な存在です。そのすごさは、日本を代表する古生物学者『ダイナソー小林』こと小林快次先生が何度も調べにいらしたことでもわかります。ワニはトカゲやヘビよりも恐竜に近い存在なのです。

自然資料館内 キシワダワニ展示の様子

きしわだ自然資料館専門員・
姫路科学館学芸普及員
渡辺　克典 氏

キシワダワニの化石は特に頭部の保存状態が良く、脳の入っていた場所もはっきり残っています。脳の形を現代の生物と比較し脳の発達部分を調べることで、視覚・嗅覚・聴力などの能力の程度をうかがい知ることができます。

マチカネワニと今生きているワニとの大きな違いはいくつかあるのですが、よくわかるのは背中でしょう。現在生きているワニではゴツゴツしていますが、それに対して平べったくキャタピラーの轍のような形状でした。発掘された背中の鱗板骨（りんばんこつ）の形からわかります。平らな背中で日光浴をしていたのかもしれません。なぜならワニは卵を産んだのち、25～28度の温度を一定期間保てないと雌ばかりが生まれ、種を残せなくなるからです。

マチカネワニは強烈な寒冷期を境に日本列島からは絶滅したと考えられますが、一度に滅んだのではなく、分布を広げたり狭めたりしながらヒトがアジア地域にやってきてからも細々と生き残っていたようです。じつはヒトの武器で裂かれたと思われるワニの骨が中国の歴史時代の地層から見つかっています。このことから、十二支ただひとつの空想の生き物『辰(龍)』は、十二支の成立当時に存在していたワニだったという説があるのです。キシワダワニが龍だったのかもしれませんよ。

なんて興味深い話！時間を忘れて聞き入った内容はとても書き切れません。ワニのいた場所や気候、食べた魚、一緒にいた生物はどんなものだったのかと想像が膨らみます。

きしわだ自然資料館の中にヒントがありそうです。展示品にはキシワダワニだけではなく、ナウマンゾウの骨格やたくさんの化石もあります。現代に生きる生物を知ることもできます。『チリメンモンスター（渡辺先生が名付け親です）さがし』など、様々なイベントも開催しているきしわだ自然資料館。ぜひ足を運んでみて下さい。　（取材：黒木、小末）

きしわだ自然資料館
〒596-0072　岸和田市堺町6番5号
Tel　072-423-8100
Fax　072-423-8101
https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/kwani.html

あるべき姿、あるべき形を未来へ
杉江能楽堂

だんじりが駆け上がるので有名な『こなから坂』を登り切ると右手に岸和田城、左手には閑静な住宅街。その一角に杉江能楽堂はあります。個人の邸宅内にあり長らく非公開だったので、ずっと岸和田に住んでいても知らない人が多いようです。杉江能楽堂実行委員会事務局長の伊地知佳香(いじちよしか)さんにお話を伺いました。

「うちに能楽堂あるの知ってる？雨戸閉めに行くけど見に来る？」勤務先の上司、谷口信介さんに声をかけられ同行したのが、杉江能楽堂との出会いでした。「ものすごくきれいだったんです」家の中に能楽堂があることに驚き、100年近くこんなに美しく残されているなんてと感動したそうです。

杉江能楽堂は所有者谷口さんの曾祖父・杉江櫻圀（すぎえおうこく）が岸和田藩主岡部長職（おかべながもと）から城内にあった橋懸(はしがかり)を賜り、大正6年に建立されました。民間では現存する大阪府下最古の能舞台です。舞台と見所※（けんしょ）は別棟で、その間に広がる白州には三本の松。光や風を肌で感じ、自然光の中で演じていた能本来の姿を体験できます。こうした対置式と呼ばれる能舞台は、現在、日本でここだけだそうです。舞台にかかる『國華』の額は長職公自らの手になるもので、岡部家との強いつながりがわかります。住宅と共存しており、生活の場の一部に能楽堂があることも特徴のひとつで、杉江能楽堂は、全国でも大変珍しい能舞台なのです。

この素晴らしい舞台を眠らせておくのは惜しい。舞台のあるべき姿形で使ってあげたい。強い思いから谷口さんの了承を得て、伊地知さんは能楽堂の企画運営に携わっていきます。とはいえ舞台の運営は初めて。伝統芸能は好きでも、観ることと公演を立ち上げることは全く違うものです。手探りで知己をたどり開催した最初のイベントはブルースのライブでした。その後、落語・講談・ジャズ・津軽三味線ライブと公演を重ねます。まずこの場所を知って欲しいとジャンルの間口を広げてきましたが「能楽堂が能をしないのは正道ではないのでは」という思いがいつもあったそうです。ただ能という古典芸能をどれだけの人が求めているかも危惧していました。それでも2020年5月、能の開催を計画していたところコロナ禍で延期。12月にようやく『第一回きしわだ杉江能』を開催できました。それに先立ち10月には『すぎえ能れっじ』と銘打った能楽講座も実施しました。

2020.9.22「能meets杉江能楽堂」

2021.2.11「きしわだ杉江能追加公演～安達原～」第一回きしわだ杉江能「安達原～白頭急進之出～」

公演は大成功でした。チケットは完売。もっと観たいという声に、この土地で、あるべき姿で能楽堂を使うことをみんなが望んでいる。「間違っていなかったと思いました」と伊地知さん。

能はユネスコの無形文化遺産に登録されています。ある能楽師の方が小学生に「いつか君たちが世界に出たとき、能は何かと聞かれて知らないのは恥ずかしいよ」とおっしゃったそうです。「能楽堂のある町を誇りに思って欲しい。伝統を守りながら、古い形に新しいものを取り入れつつ能の普及に努めていきたい。使命だと思っています」頼もしい伊地知さんの言葉です。岸和田城下町サミットの同志として、心から拍手とエールを送りたいと思います。

（取材：黒木・小末）

杉江能楽堂
〒596-0073　岸和田市岸城町6-10
Tel　072-447-6206　Fax　072-447-6204
https://tiplus-hd.com/

※観客席のこと

会員のページ

一語一縁

Ichigo-Ichien

【未来へ　ここから】
～きっかけは○○～

自泉アーティストバンク　西村（にしむら）　文花（ふみか）

私は現在ソプラノ歌手として活動しておりますが、10年前の高校3年生の春まではまさか自分がこのような道を選んでいるとは思ってもいませんでした。

4歳の頃からヤマハ音楽教室に通い始め、ピアノを弾くことも大好き、歌うことも大好き、音楽であれば何でも大好き！というような子どもでした。

小学校・中学校と地元の公立学校に通い、中学校・高校では合唱部に所属。そんな時、高校の合唱部の顧問でもある音楽の先生に「歌で音大を受験してみないか」と声を掛けられたのです。その頃の私は“幼稚園の先生、保育士”に興味を持っていたので「そんな冗談を（笑）」なんて聞き流していました。

月日が流れ、高校3年生の春。音楽の先生からの誘いは続いていました。確かにこの声は両親からもらった唯一無二の賜物…私の個性の1つである歌でもう一度音楽と向き合いたいと思い、私は大阪音楽大学を受験することに決めました。両親にも理解してもらい、有難いことに大学4年間、そして大学院2年間まで学ぶ機会をいただきました。

こうして、今の私がいます。現在はというと3年前に大学院を卒業し、泉州を中心に活動をしています。「敷居の高いクラシック音楽を『ふみかワールド』で親しみのある音楽に」をモットーに日々精進しております。「文花ちゃんが出るんやったら聴きに行ったろ！応援に行くわぁ～！」と言ってもらえるような歌い手を目指して活動を続けていきたいと思います！

＊岸和田文化事業協会は、自泉アーティストバンクをとおして若い芸術家を応援しています。

岸和田市国際親善協会との出会い

藤平（ふじひら）　敬子（けいこ）

大阪府が大阪府国際交流財団及び大阪外国語大学（現大阪大学）と連携して、平成17年度から3年間実施した『外国人サポーター1000人育成プロジェクト』。これは観光・学校活動・急病時対応などの様々な場面で外国人を支援するボランティアを1,000人育成するというものですが、私も最初の年は受講生として、2年目以降は中国語講師としてこのプロジェクトに参加し、『大阪府災害時外国人サポーター』及び『大阪府教育サポーター』の認証を受けました。

この研修を通じて、大阪府内にも日本語がわからず困っている外国人がたくさんいる、ということを知りました。「じゃあ岸和田は？」ちょうど折よく『広報きしわだ』に当協会主催の『日本語指導者養成講座（現日本語ボランティア養成講座）』開講の記事を見つけ、養成講座受講を機に当協会に入会しました。

あれから15年。現在事務局におりますが、日本語ボランティアの活動も続けています。昨年春開講を予定していた『第15期日本語ボランティア養成講座』はコロナの影響で1年遅れて、今年４月22日（木）職員会館で開講説明会を行いました。

日本語サロンは毎週火・水・金曜、市内５か所で開講しています。現在岸和田市及び近隣在住の外国人約70名が在籍していますが、その出身国は中東、ヨーロッパ、アジアと世界中に及んでいて、滞留事由も技能実習生、一般会社員、その家族など多種多様。それに伴って日本語のレベル、学ぶ目的や要望もさまざまです。原則マンツーマン方式でボランティアとサロン生がお互いに相談して学習を進めていきます。サロンでは日本語指導だけでなく、ひなまつりや七夕、みかん狩りなど、いろいろ楽しいイベントも行っています。コロナ禍の影響でやむを得ず休講になることもありますが、皆さんの身の回りに日本語で困っている方がいらっしゃいましたら、ぜひ当協会をご紹介ください。

今年は東日本大震災から10年、阪神淡路大震災から26年になります。地震以外に台風や大雨などの災害、また今回のようなコロナ禍、どの場面においても日本で暮らす外国人が誰一人取り残されることのないよう、これからも当協会で活動して行きたいと思います。

岸和田市国際親善協会

＊一語一縁のページでは、会員の紹介に加え【未来へ　ここから】と題し、自泉アーティストバンク登録者も紹介して行きます。

「なにわ時計学校」～古きよきものを大切に～

なにわ時計学校 学校長 池宮俊二氏 に伺いました

紀州街道と塔原線が交わる角あたり。「なにわ時計学校」「なにわ時計研究会事務所」と書かれた看板を気にしながら横目で通り過ぎている方、いらっしゃいませんか？

今回はその「なにわ時計学校」の学校長、池宮さんを訪ねました。

ドアのチャイムをピンポ～ンと鳴らすと、笑顔の優しい池宮さんがお迎えしてくださいました。ちょうど10時。大きな柱時計が素敵な音色を鳴らし、その奥にたくさんのアンティークな柱時計や置時計が鎮座しています。時計学校に似つかわしい校内で、いろいろなお話を伺いました。

池宮さんは御年71才。大正3年創業の池宮時計店（創業当時は時計に加え蓄音機やレコードも扱っていたそうです）を守りながら、約35年、時計組合の職業訓練校講師を務めてこられました。時計師を職業としたのは、家業を継ぐはずのお兄さんが時計店を継ぐのを辞めると言われたからだそうです。

高校卒業後、角野時計学校に入学。24歳の時、国家試験2級に合格。25歳で最難関の日本時計師会CMW試験に1回でトップ合格。お父様が鼻高々でお客様に言い触らしていたほどでした。

そごう角野常三商店の修理に携わっていた頃、角野時計学校移転先の卸業者「(株)福田」の福田社長から時計修理を依頼され、ロレックスの研修に2か月通いました。そこで「本当に各試験に合格してきたのか？」と言われたそうです。試験と実践の違いを深く感じた池宮さんは、一番基本的な構造であるロレックス全機種について学び、実力を磨きました。

その後、時計店を営みつつ大阪時計組合職業訓練校で教えていましたが、自身が知る時計の全てを教えたい、もっと自分の持つ知識を後世に伝えたいとの思いから訓練校を辞め、6年前に「なにわ時計学校」を開校されたのです。

開校にあたり設備を揃えるのが大変でした。古い機材や本などは廃業された方々にいただきました。現在製造・発行していないものも多く、今となっては大変貴重になっています。教室にはこうした機械が所狭しと並んでいました。

修理を依頼された古い時計などは、部品が手に入らない事が多々あります。それらは1から部品を作ります。「子育てと一緒で、手間のかかる仕事は大変だがやり甲斐が大きく、そうした時計はとても記憶に残っています」とのこと。最近は「片付けたら出てきたから」と古い腕時計やボンボン時計の修理が増えてきたそうです。

西原さんと池宮さん

なにわ時計学校の講師は、池宮さんと西原さんの2人。柱時計、置時計、腕時計など時計の形や種類、仕組みをまず学び、それらの修繕をしていきます。

現在生徒は20歳前後の方が2名。名古屋と徳島から来ています。卒業後、時計師として働いている方もいらっしゃいます。

「やればやるほど奥深く、興味のわく仕事。時計に興味がある方は、まず気軽に見学してください」と池宮さん。

学校は毎月ごとに入学可能で、1年、2年、3年と3つのコースがあります。3年間学ぶと時計職人としての技術が身につき、一生の仕事となります。四畳半ぐらいの場所があれば自分のお店を持つことも可能です。

就職先としては、メーカーや修理センター、もちろん個人で時計屋を立ち上げる方もいます。

「今、時計は多様化し、時間を見るだけでなく、楽しみの時計になっています。若い方はパソコンなどを活用し新しい時計屋ができると思うので、大いに期待しています」

古いものを大切にしつつ、新しいものを取り入れ未来を語る池宮さんは知識の宝庫のような方でした。これからもお元気で、後進の育成、技術の継承に力を注いでいかれることを期待しています。

（取材：黒木・小末）

※69号2面に掲載いたしました『「なにわ時計学校」～古きよきものを大切に～』に修正がございましたので再度掲載いたします。
取材を受けてくださいました池宮氏、またこの文章をお読みになられた方々には深くお詫び申し上げます。

Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

アンケートからの抜粋

新春コンサート2021 ～自泉女声アンサンブル with 野上貴子～

日時:1月31日(日)午後2時開演　入場者数:62人

〈皆さんの声〉

◆コロナ禍の中、こんな素晴らしい時間が持てて感謝しています。
◆アットホームな素敵なコンサートでした。
　野上さんを始め、出演者皆さんの元気な姿や歌われる姿勢に勇気や元気を頂きました。
◆盛りだくさんの企画で充分楽しませていただきました。ソリストさんの演奏はもちろん、女声アンサンブルの方々も練習の成果を発揮され、とても楽しかったです。

第13回フレッシュプレミアムコンサート 未来へ ～ここから～

日時:3月6日(土)午後3時開演
入場者数:98人

〈皆さんの声〉

◆コロナ禍において演奏の場が限られるが、生の音楽を聴ける場を受けてくださり感謝します
◆岸和田で発信されていることを誇りに思います。末永く続けてください。
◆若い音楽家たちの演奏に喜びと感動を頂きました。コンクール形式が良かったです。
◆コロナ禍の演奏会の感染対策がよくわかりました。

岸和田文化事業協会の事業 Information

令和3年度　定時総会開催

令和3年度定時総会を下記の要領で開催いたします。

日　時:5月29日(土)午後2時より
会　場:岸和田市立自泉会館ホール
内　容:①　令和2年度事業・決算報告
　　②　令和3年度事業計画・予算案審議

●第63回自泉フレッシュコンサート

日　時:6月18日(金)午後6時30分開演(午後6時開場)
会　場:岸和田市立自泉会館ホール
出演者:久保　侑可(クラリネット)
　　永田　雅子(声楽)
入場料:一般前売1200円
　　会員前売1000円(いずれも当日200円増)

●3館合同事業 おはなし×あそび きっしゃんのシリーズ シリーズ2「きっしゃん"の"宴×仮面を使って、身体を創造する」参加者募集!

「表現あそびを楽しむ、心が動くってどんなこと?」をテーマに、座談会と工作・実演を、少し演劇的に広げます。

日　時:6月20日(日)午後1時～3時
会　場:南海浪切ホール2階　練習室1
対　象:18歳以上の方で子どもと関わる職業等
定　員:20名(応募者多数の場合は抽選)
参加料:無料
　　※詳しくはチラシをご覧ください。

■お問い合わせ　岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

令和3年度(2021年度)(2021年4月～2022年3月)

会員募集

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

●自泉会館では、新型コロナウイルス感染症防止のため事業鑑賞人数等を縮小して行っています。ご了承ください。
●自泉会館をご利用の際は、手指の消毒、マスク等の着用、社会的距離の確保、体調の悪い方の入館はご遠慮ください。また館内は換気のため扉等を開放しています。ご了承ください。

●第10回自泉ジュニアコンサート出演者を募集します。

●オーディション日時:7月24日(土)午後2時より
●コンサート日時:8月29日(日)
　　午後2時開演(午後1時30分開場)
●会場:岸和田市立自泉会館ホール
●募集内容
　ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器演奏に限る。
　小学生～高校生対象
　参加費は2,000円
　※出演者募集詳細については、チラシまたは岸和田文化事業協会のホームページをご覧ください。
●申込み・問い合わせ先　岸和田文化事業協会
　〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館
　TEL/FAX 072-437-3801
　E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

第72回岸和田市市展への出品を募集いたします

自作未発表のものに限ります

- 資　　格　平成18年4月1日以前に生まれた方
- 作品規格、搬入日、展示期間等　表のとおり
- 出 品 料　500円
- 搬入場所　マドカホール展示場(荒木町1丁目)

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを付けてください。
※詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

会期	部門	体裁	大きさ(cm)	出品点数	搬入日	展示期間
1期	洋画	額装 (ガラス不可)	20号(72.7×　)～50号(116.7×　) 版画は自由	1人1点	5月11日(火) 12日(水) 午後1時～7時	5月16日(日) ～23日(日)
2期	写真	パネル張り・額装 (ガラス・アクリル不可)	半切、A3以上(マット内寸長辺38以上) 組写真　100×80以内	1人1点	5月25日(火) 26日(水) 午後1時～7時	5月30日(日) ～6月6日(日)
3期	書	額装・軸装・枠装・衝立・	仕上り寸法180×180又は250×70以内(縦横自由)	1人1点	6月8日(火) 9日(水) 午後1時～7時	6月13日(日) ～20日(日)
		屏風・帖・巻物・刻字・篆刻	自由			
	日本画	額装 (ガラス・アクリル不可)	10号～60号(53×～130.3×) ※落款のある作品は受付不可	1人1点		
4期	陶芸	装飾的付属品は不可(皿立て、ランプ等)	自由	1人2点以内	6月22日(火) 23日(水) 午後1時～7時	6月27日(日) ～7月4日(日)
	俳画	額装・軸装	6号色紙大(61×31.7)以上	1人2点以内		

問合せ先:マドカホール
電話:072-443-3800(9時～17時)　休館日:月曜日・4/29・5/3～5/5

nouvelle Fontaine

vol.70
発行:岸和田文化事業協会
発行日:2021年4月25日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10　岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp
◆編集委員　近江和代・小木曽由季・黒木幸子・小末もとえ

編集後記…

コロナと向き合う日々が続いております。爽やかな新緑の候。一日も早く、心置きなく季節を楽しめますようにと願うばかりです。　(近江)

http://jisen.jp/
岸和田文化事業協会　検索